

## Kavli IPMU 記者会見での発言

2012/2/8

ロバート W. コン

カブリ財団理事長

まず最初に濱田総長、松本副学長、そして村山機構長にお祝いを申し上げます。今日はカブリ財団が東京大学に寄附を行い、カブリ数物連携宇宙研究機構(Kavli IPMU)の命名をお祝いする特別な日です。東京大学は世界トップの大学の一つで、世界中で屢々トップ20にランクしています。東大の学生と教授陣は、科学の分野での発見で輝かしい歴史があります。そして5年前、IPMU が世界トップレベル研究拠点として設立されたことは、東大の科学分野でのリーダーシップの更なる一歩でした。

カブリ財団が科学を支援するモデルは、他の財団とは違います。カブリ財団はカブリ研究所に基金を提供し、基金は毎年運用益を産み、研究所が本来持っている政府などからの資金に加えて、研究を支援します。基金からの運用益は柔軟で、研究所が新しい方向に進み、新しいアイデアや発見を追求することを、政府に研究費を申請する程内容が成熟する前の段階で可能にするのです。

IPMU については、二つの点で大変感銘を受け、私たちは東大とパートナーになることを決めました。一つ目は研究の質の高さと、取り組んでいる問題が大変根本的なものであることです。村山機構長がたった今お話しされましたが、一つ付け加えますと、Kavli IPMU の研究はカブリ財団が支援する四つの分野の内の二つ、宇宙天体物理と理論物理に跨がっています。Kavli IPMU のこの研究プログラムは私たちにとって大変魅力的でした。

二つ目は IPMU の国際性です。強力な WPI プログラムのガイドラインに沿って、IPMU は英語を公用語とし、大勢の日本人でない研究者を雇っています。日本の大学でいまだかつてなかった新しいタイプの組織を実現し、日本の科学の新しい方向性をリードしています。世界の科学のコミュニティーで高いビジビリティを得つつあり、真に非常に国際的な研究所です。

東京大学と Kavli IPMU をカブリ研究所の家族に迎えることは、私たちにとって大変な名誉と特権です。世界中のカブリ研究所が、あなた方を家族の一員に迎えることで得るものがあり、あなた方を加えることで全員の科学の追究を強めることになり、長い目で見ると全ての人の人生をよりよいものにするでしょう。